

健康生活支援実習（母子と家族）

[実習] 第3学年 後期 必修 2単位

《担当者名》○常田 美和 tsuneta@hoku-iryo-u.ac.jp 野崎由希子

【概要】

妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にある対象者とその家族の特性を理解し、対象者の状態に応じた看護活動を学ぶ。

【学修目標】

上記の対象者に対する看護の役割を理解するために、妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児を受け持ち、看護実践を通して以下を目標として学ぶ。

1. 妊娠・分娩・産褥期の女性および新生児の身体的・心理的・社会的特性を説明できる。
2. 母子・父子関係、および家族関係について説明できる。
3. 妊娠・分娩・産褥期の女性および新生児の健康状態についてアセスメントし、必要な援助を考えることができる。
4. 妊娠・分娩・産褥期の女性および新生児に必要な援助を、安全かつ適切に実施できる。
5. 母性看護の対象者に必要な施設退院後の看護活動について説明できる。
6. 看護者としての資質の発展に向け、努力できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1週目	受け持ち母子実習	産褥期母子を受け持ち、産褥期母子に必要な援助を考える 記録用紙 ~ を使用し看護過程を展開 : 情報収集、アセスメント 記録用紙 を使用し行動計画の立案と実践・評価 (受け持ち状況により週の学習内容は変わる) * 対象者がいたら分娩期から受け持つ * 状況に応じて外来実習や母親学級に参加する 地域における母子保健活動の実際を知る	常田 野崎
2週目	受け持ち母子実習	産褥期母子を受け持ち、産褥期母子に必要な援助を実践する 記録用紙 ~ を使用し看護過程を展開 : 計画立案、実施、評価 記録用紙 を使用し行動計画の立案と実践・評価 記録用紙 を使用し受け持ち母子の振り返りと要約 (受け持ち状況により週の学習内容は変わる) * 対象者がいたら分娩期から受け持つ * 状況に応じて外来実習や母親学級に参加する 地域における母子保健活動の実際を知る	常田 野崎

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

評価には、全実習日数の70%以上の出席が必要となる。

実習内容・実習記録・実習態度を総合的に評価する。

【教科書】

母性看護学関連科目の項、参照。

【参考書】

母性看護学関連科目の項、参照。

【学修の準備】

- ・妊婦の腹部触診、産褥子宮の触診、新生児のバイタル測定および全身観察、沐浴など、既習の母性看護技術について臨地実習開始までに母性看護実習室でモデル人形を用いて練習をしておく。(予習1時間)
- ・2年後期に配付した学習ノートを完成させる。(復習1時間)

【実習方法】

実習期間：3年後期の指定された2週

1グループ 2025年1月 6日(月)～1月17日(金)

2グループ 2025年1月20日(月)～1月31日(金)

3グループ 2025年2月 3日(月)～2月14日(金)

4グループ 2025年2月17日(月)～2月28日(金)

実習施設

手稲溪仁会病院、北海道大学病院、札幌医科大学附属病院、NTT東日本札幌病院、札幌徳洲会病院、江別市立病院、岩見沢市立総合病院、福住産科婦人科クリニック、ユキコカンガルー助産院、あいの里助産院、江別市健康福祉部

【ディプロマ・ポリシーとの関連】

DP2. 看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実務経験】

常田 美和(助産師)、野崎由希子(看護師)

【実務経験を活かした教育内容】

臨床での看護師・助産師としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。